

**令和 3 年度
日本東洋医学会関西支部
三県合同教育講演会
講演要旨集**

2022 年 2 月 20 日(日) 13 時~17 時

WEB 開催 (Zoom 使用)



生薬を識る!



主催 一般社団法人 日本東洋医学会関西支部京都府部会

ご挨拶

令和3年度日本東洋医学会三県合同教育講演会
会長 田中邦雄(明治国際医療大学)

漢方医学の湯液療法は種々の生薬構成から成り立っている漢方薬(漢方方剤)と患者が訴えている”証”を結び付けることによって治療に最適な方剤を選定し、場合によっては、構成生薬を加減して最適な治療を選択するという方法をとっています。

この漢方方剤の組み合わせと”証”の知識、並びに生薬の知識は漢方医学の湯液を学ぶ上では必須です。たとえば、桂枝湯は太陽病の処方ですが、桂枝湯を構成する芍薬を増やせば桂枝加芍薬湯という別な処方、太陰病というまったく別な”証”の処方になります。

思い返すと、今までの学会の教育講演では生薬に対する情報を十分に皆様に伝えられているとは思えません。そこで、今回は、生薬を中心として、皆様の漢方の知識をさらに充実できるように企画しました。

具体的には、三谷和男先生に「日本の生薬栽培の現状」、高橋宏和先生に「黄耆の薬能と黄耆類方」、松田久司先生に「駆瘀血薬とその関与成分」を講演していただき、皆様の生薬の知識を上塗りし、さらに漢方薬の知識を増強していただくように企画しました。

みなさまの今後の漢方治療の助けになれば幸いです。

開催概要

名 称	令和 3 年度日本東洋医学会関西支部 三県合同教育講演会
会 期	令和 4 年 2 月 20 日(日) 13:00~17:00
開催形式	WEB 開催のみ ZOOM によるライブ配信(オンデマンド配信はありません)
参加費	3,000 円(会員・非会員とも) 学部学生 無料
会 長	田中 邦雄 (明治国際医療大学)
専門医制度の認定	専門医更新点数 10 点 専門医受験単位 1 単位
その他単位	日本薬剤師研修センター (認定薬剤師または漢方薬・生薬認定薬剤師研修単位) 2 単位 研修単位は、開始 30 分経過以前の視聴開始かつ終了 30 分前以後の 視聴終了と、課題の解答提出が単位認定のため必要となります。
事務局	洛和会音羽リハビリテーション病院 内科 山崎武俊 〒607-8113 京都市山科区小山北構町 32-1

ご案内

参加申し込み

参加登録(マナブル) <http://jsom.manaable.com/login/12/detail>

(参加登録の際には、まず「新規登録」を行ってください。)

新規登録の方法

http://www.jsom.or.jp/medical/information/pdf/manaable_sign_up.pdf

当日の受講・視聴の手順

日本東洋医学会ホームページ 研修一覧検索&研修申込サイト(manaable)よりお入りください。

場合によっては、zoom からのメールが迷惑メールと認識されてしまう場合がございます。メールが確認できない場合は、迷惑メールのボックスもご確認ください。

くれぐれも時間には余裕をもってアクセスを行ってください。

スケジュール

開会の辞 (13:00~13:10)

会長: 田中 邦雄 (明治国際医療大学)

教育講演 (13:10~14:10)

座長: 伊藤 美千穂 (京都大学大学院薬学研究科薬品資源学)

日本の生薬栽培の現状

三谷 和男 (三谷ファミリークリニック)

特別講演 I (14:20~15:20)

座長: 田中 秀一 (医療法人田中医院)

黄耆の薬能と黄耆類方

高橋 宏和 (末広薬局)

特別講演 II (15:30~16:30)

座長: 田中 邦雄 (明治国際医療大学)

駆瘀血薬とその関与成分

松田 久司 (京都薬科大学 生薬学教室)

閉会の辞 (16:40~16:50)

準備委員長: 細野 靖之 (あゆみ薬局)

教育講演

日本の生薬栽培の現状 ～奈良県を例に～

三谷 和男 (奈良県立医科大学大和漢方医学薬学センター 特任教授)

(医療法人 三谷ファミリークリニック)

【はじめに～奈良県のプロジェクトの背景・目的】

増大する医療費削減の有力な手段として漢方が注目を集めているが、奈良県は生薬(薬用作物)の栽培について、推古朝にまで遡る歴史、地場産業として配置薬業が発展してきた文化など他県にはない特徴がある。今後さらに需要が見込まれる漢方に関し、奈良県独自の手法で、高品質の薬用作物の生産、六次産業に活かす漢方関連品の製造販売、新たな医療サービスの創出も視野に入れ、県内の産業活性化を図ることを目的とし 2013 年(平成 24 年)12 月に、県庁の医療政策部、産業・雇用振興部、農林部などにより、部局横断的な「漢方のメッカ推進プロジェクトチーム」が立ち上がった。

【プロジェクトの骨格・ステージ】

本プロジェクトは部局横断の取り組みであり、薬用作物の供給から漢方普及までを5つのステージ(1. 生薬の供給拡大 2. 漢方薬等の研究・臨床 3. 漢方薬等の製造 4. 漢方薬等の販売促進 5. 漢方の普及)に分け、それぞれの課題に取り組んでいる。

【トウキ(当帰)とキハダ(黄柏)】

トウキはセリ科に属し、血行改善や鎮痛作用を有する代表的な婦人薬である。奈良県では現在の五條市大深町を中心に、17 世紀中頃より盛んに栽培されていた。奈良県産のトウキは良質な大和当帰として知られている。キハダは、役の行者が 1300 年前ごろ大峰山の開山の際、山中に生え繁るキハダの煮汁を取り、胃腸の病をはじめ様々な内臓、外傷にも薬効のある事を伝えたといわれる。このキハダを主成分として製法された「陀羅尼助丸」は、幅広い消化器症状に効能がある。

【展望とまとめ】

トウキ、キハダは、奈良県においてその製法が引き継がれてきた伝統ある薬用作物である。栽培技術の向上(継承)もさることながら、奈良県は生薬の栽培に適した土壌である。しかし良品を使うと診療費が高額となる(中国産は安価である)。しかし、私たちが「安全を確保された薬用作物」を提供することが、治療を受ける患者さんの「安心を保障する」ことができるのも事実である。私は、良質な薬用作物による効果の高い漢方診療を目指している。

【略歴】

昭和58年 鳥取大学医学部医学科 卒業
昭和58年 大阪大学大学院医学研究科博士課程(集団社会医学概論)
昭和61年 和歌山県立医科大学神経病研究部(現・脳神経内科)
平成4年 木津川厚生会加賀屋病院
平成15年 京都府立医科大学東洋医学講座 助教授(19年より准教授)
平成19年 三谷ファミリークリニック開設
平成21年 京都府立医科大学漢方外来 特任教授(現在に至る)
平成26年 奈良県立医科大学大和医学薬学センター 副センター長・特任教授(現在に至る)

【現職】

医療法人 三谷ファミリークリニック 院長
奈良県立医科大学 特任教授 同 大和漢方医学薬学センター 副センター長
京都府立医科大学 特任教授
関西医科大学、鳥取大学、滋賀医科大学、長崎大学歯学部、京都薬科大学 各非常勤講師

【役職】

日本東洋医学会 副会長・代議員・専門医・指導医、日本女性心身学会 評議員、日本抗加齢医学会 評議員、東亜医学協会 理事

【著書】

- 1 傷寒論の読み方—古典を臨床に生かす—
- 2 「入門東洋医学」分担執筆：社団法人日本東洋医学会学術教育委員会 編。
- 3 新版・慢性関節リウマチと漢方。大阪慢性関節リウマチ患者会
- 4 「漢方治療指針」分担執筆疾患別編 難病SMON, 症候別編 口乾・口渇：5 補完・代替医療「漢方」：金芳堂

特別講演 I

黄耆の薬能と黄耆類方

高橋 宏和 (末広薬局)

<中薬学による薬能>

<気味> 甘、微温 <帰経> 脾・肺

1. 補気昇陽(昇提)・補脾益肺

甘温で補気昇陽に働き、脾・肺の気虚に用いられる。

・脾肺気虚、疲労倦怠、食少短気、中気下陷、久瀉脱肛、内臓下垂

補中益気湯、清暑益気湯、十全大補湯、黄耆建中湯、人参養栄湯、半夏白朮天麻湯

2. 補気生血・摂血

「補気を通じて血を補う」方法で、補血薬とともに用いて補血の力を強める。また、脾虚による統血作用の失調の出血に用いる。

・気血両虚、疲労倦怠、顔面蒼白、脾不統血、紫斑出血

十全大補湯、補中益気湯、帰脾湯、七物降下湯

3. 補気通絡

「気行れば血行り、血を治すには先ず気を治す」方法で、気虚による血痺に用いる。

・気虚血滞、風湿痺痛、気虚血痺、肢体疼痛、麻木拘攣

大防風湯、十全大補湯、黄耆桂枝五物湯、補陽還五湯

4. 固表止汗

気虚による自汗・盗汗に用いる。

・衛表不固、自汗盗汗

玉屏風散、桂枝加黄耆湯、黄耆建中湯、防己黄耆湯

5. 托毒生肌

生氣不足により、癰疽瘡瘍が化膿せず、排膿しないものや、潰瘍となって治らないものに用いる。

・癰疽不潰、久敗潰瘍、内陷不起

千金内托散、黄耆建中湯、桂枝加黄耆湯、当归飲子、十全大補湯

6. 利水消腫

気虚の水湿不運による浮腫に用いる。

・気虚水腫、身面浮腫、関節腫痛、小便不利

防己黄耆湯、清心蓮子飲

<参考>

『KAMPO十大類方』 黄煌著 より

[黄耆証] 1. 自汗、盗汗、悪風、身体が重い、肢体のしびれ・知覚異常。

2. 浮腫、身体が重い、小便不利。

3. 潰瘍が長くふさがらず、膿水が薄く透明。

[黄耆体質] **外観特徴:** 顔色は黄白あるいは全体に黄色いがやや赤みがある、あるいは黄暗、光沢が欠乏。筋肉がたるんで柔らかい、浮腫顔、目には精彩が少ない、顔色には艶がない。腹壁は軟弱で無力。舌質は淡胖、舌苔は潤。

好発症状: 平素より汗をかきやすい、風をきらう、風冷に遭うと過敏になりやすい、あるいは咳嗽・喘息、あるいは鼻閉、感冒にかかりやすい。大便が稀薄な泥状で形を成さない、あるいは初め乾燥で後が泥状。食欲不振、腹が脹満しやすい。浮腫、特に脚部が浮腫になりやすい、手足のしびれ・知覚異常を起こしやすい。

体質傾向: 多風、多湿。

<配伍応用>

黄耆-人参

- ・ とともに補肺脾氣に働くが、黄耆は補肺の力が強く、表虚に用い、人参は補脾の力が強く、裏虚に用いることが多い。両者の組み合わせで、脾肺、表裏ともに補い、全身の気虚に用いる基本となる。… 補中益気湯、十全大補湯、人参養栄湯

黄耆-当帰

- ・ 補血の基本処方の当帰補血湯(李東垣)の組み合わせで、生血の源(脾・肺)を黄耆で補い、当帰の補血作用を強める。… 十全大補湯、帰脾湯
- ・ 気虚から起こる血虚発熱に対して、当帰で補血し、黄耆の補気作用を助ける。
… 補中益気湯、清暑益気湯、人参養栄湯

黄耆-防風

- ・ 黄耆の固表止汗作用と、防風の祛風解表作用の組み合わせで、黄耆が固表止汗するときに防風の力により邪気を抱き込まず、防風が祛風解表するときに、黄耆の力により生気を保護することができる。この組み合わせは、補中に散有り、相互に作用しあって固表止汗の作用を高める。… 玉屏風散

黄耆-桂皮

- ・ 黄耆は脾肺に入って益気し、桂皮は腎に入って助陽する。両者の組み合わせで、益気助陽の力が強まり、さらに補血薬を組み合わせると、全身の気血の不足に用いられる。
… 十全大補湯、黄耆建中湯、桂枝加黄耆湯
- ・ 黄耆の補気通絡作用と、桂皮の温経通脈作用を組み合わせると、気血管衛の不足による筋肉のしびれや痛みに用いられる。… 黄耆桂枝五物湯、十全大補湯

<代表的な黄耆剤> 『』は「KMPO十大類方」より

1) 補中益気湯

人参・白朮・黄耆・当帰・陳皮・大棗・柴胡・升麻・甘草・生姜

「元気がなく胃腸のはたらきが衰えて疲れやすいものの次の諸症:虚弱体質、病後の衰弱、食欲不振、ねあせ」

『1.顔色は萎黄で貧血顔を呈す、体型は痩せて長いあるいは昔肥っていたが今は痩せている。舌質は淡紅で嫩、舌苔は薄白。』

2.自覚的な発熱感あるいは悪風感、顕著な全身の倦怠感、軽微な胸脇苦満感、手足の冷え、自汗・悪風。』

3.あるいは内臓下垂、子宮下垂、脱肛、下痢、便秘、腹痛、頭痛、昏暈、浮腫、小便不利など。』

2) 防己黄耆湯

防己・黄耆・白朮・生姜・大棗・甘草

「色白で疲れやすく、汗のかきやすい傾向のある次の諸症:肥満症(筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり)、関節痛、むくみ」

『1.浮腫、特に下肢が甚だしい、悪風多汗、尿量減少。』

2.関節痛、特に膝関節の腫痛、筋肉痛。』

3) 黄耆建中湯

桂皮・大棗・芍薬・甘草・生姜・黄耆・膠飴

「身体虚弱で疲労しやすいものの次の諸症:虚弱体質、病後の衰弱、ねあせ」

『1.慢性腹痛、温め按ずることを好む。』

2.自汗あるいは盗汗しやすい、身体に寒を受け悪風、顔色は萎黄、身体が重くあるいは軽度の浮腫がある。』

3.舌質淡紅あるいは暗、脈は虚大。』

4) 玉屏風散

黄耆・白朮・防風

「身体虚弱で疲労しやすいものの次の諸症:虚弱体質、疲労倦怠感、ねあせ」

『1.感冒にかかりやすい、風をきらう、自汗、クシャミ、身体痛あるいは頭痛。』

2.浮腫、あるいは浮腫になりやすい、尿量減少、稀薄な泥状便。』

5) 千金内托散

黄耆・人参・当帰・川芎・防風・桔梗・白芷・厚朴・桂皮・甘草・金銀花

「体力虚弱で、患部が化膿するものの次の諸症:化膿性皮膚疾患の初期、痔、軽いとこずれ」

『1.癰疽の表皮が暗く、瘡頂が平陥している、あまり疼痛はなく、あるいは潰れた後なかなか口がふさがらない、分泌物は薄く透明で、創傷の色は淡で新鮮ではない。』

2.全身状態が不良である。』

6) 補陽還五湯

黄耆・当帰・芍薬・桃仁・紅花・川芎・地竜

「体力虚弱なもの次の諸症：しびれ、筋力低下、頻尿、軽い尿漏れ」

『1.半身不随、肢体の麻痺、知覚異常、あるいは身体痛。

2.浮腫、特に下肢が甚だしい、自汗・悪風。

3.舌質は淡胖が多く、紫暗色を呈す、あるいは瘀斑・瘀点がある、脈は沈緩、細洪。』

【略歴】

昭和53年 徳島大学薬学部卒業

昭和53年 医療法人聖光園細野診療所勤務。

平成3年 末広薬局（兵庫県明石市）。

【現職】

薬剤師。京都漢方研究会理事・講師。

京都薬科大学非常勤講師（漢方医薬学担当）。

社団法人日本漢方交流会理事（～平成25年）

【専門】 細野流（浅田流）を中心とした折衷派。

特別講演Ⅱ

駆瘀血薬とその関与成分

松田 久司(京都薬科大学名誉教授)

『瘀血』は漢方において重要な病態の一つである。駆瘀血作用を有する桃核承気湯、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散などの方剤は広く用いられており、ヒトでの有効性に関して多くの報告がある。一方、瘀血病態を再現する動物モデルが乏しく、ベタメタゾン誘発瘀血モデルなどを用いて方剤の効果が報告されているが、駆瘀血作用が期待される生薬の有効成分に関してはほとんど研究が進んでいない。本講演では、実験動物を用いた瘀血類似病態モデルの報告 2 例と私共のカラダイオウ (*Rheum undulatum*, 根茎) を基原とする大黄に関する研究、代表的な駆瘀血生薬(芍薬、牡丹皮、桃仁など)の基礎研究について紹介する。

岩岡らは、卵白リゾチーム感作マウスのアレルギーインダクションフェーズで尾部皮下の静脈微小循環の血流量の低下を見出した。これが瘀血症状と類似しており、駆瘀血方剤として臨床応用される代表的な漢方処方および駆瘀血生薬を評価した¹⁾。その結果、加味逍遙散、桃核承気湯、当帰芍薬散および桂枝茯苓丸に顕著な抑制作用が見られたが、小柴胡湯には顕著な作用は見られなかったと報告している。また生薬では、駆瘀血生薬として知られる牡丹皮、桃仁、当帰および芍薬は、血流量低下を改善した。これら生薬の関与成分については明らかにされていないが、他の薬用植物の研究から apigenin、luteolin などのフラボノイドの有効性を報告している。

最近、平山らは、マウス腹部皮下血管の微小生体撮影(ライブイメージング)により検討し、桃核承気湯、桂枝茯苓丸、当帰芍薬散の標的血管の違いについて報告している²⁾。実証よりの症例に用いられる桃核承気湯が動脈から毛細血管にかけて著名な血流改善効果を示したのに対し、虚証に用いられる当帰芍薬散には毛細血管に対する緩徐かつ持続する作用が観察され、桂枝茯苓丸は細動脈径の拡張作用が強いと報告している。

日本薬局方では大黄はタデ科の *Rheum palmatum*、*R. tanguticum*、*R. officinale*、*R. coreanum* またはそれらの種間雑種の通例、根茎を基原とする生薬であるとされている。大黄は瀉下効果のみではなく、駆瘀血作用を目的とする漢方処方にも配合され、エンドトキシン誘発血管内血栓症を抑制し、*in vitro* では血小板凝集抑制作用、抗トロンビン作用、抗線溶作用を示し、その有効成分はスチルベン類と考えられている。*R. palmatum*などを基原とする日本薬局方収載の大黄は、*Palmata* 節植物として分類され、真正の大黄として規定しており、rhaponticin を含有する *Rhapontica* 節植物を非薬用大黄として区別している。しかし、非薬用大黄と定めている大黄の

中でも *R. undulatum* を基原とする大黄は、瀉下作用は弱いが駆瘀血作用は強いとも言われている。

故 久保道徳先生や私共の研究グループは、瘀血の病態には微小な血行障害のみならず、一部の慢性炎症やアレルギー反応も含まれると考え、研究を行ってきた。これまでに、*R. undulatum* を基原とする大黄に D-ガラクトサミン/LPS 誘発肝障害抑制作用、活性化マクロファージにおける過剰な一酸化窒素産生抑制作用、抗酸化作用など駆瘀血作用に関連した薬理活性を見出した。また、これに含まれるスチルベン類の抗アレルギー作用に関しても、久保先生らはマウスを用いた I 型および IV 型アレルギー反応において rhapontigenin や piceatannol などのスチルベン類に有効性を認め³⁾、私共もラット好塩基球性白血細胞 (RBL-2H3) を用いた *in vitro* での実験を行い、活性発現のための必須構造を明らかにするとともに、TNF- α および IL-4 産生に及ぼす影響について報告した⁴⁾。なお、rhaponticin などの主配糖体は *in vitro* 試験では抗アレルギー活性を示さなかったが、ヒト腸内細菌で代謝を受けて rhapontigenin に変化することが知られており、*in vivo* 試験では抗アレルギー作用を示すことが明らかにされている。各種大黄のなかでも rhaponticin を含む *Rhapontica* 節系の大黄は劣品扱いされてきたが、駆瘀血作用を期待するときはスチルベン化合物を多く含む大黄を用いることにより、期待した効果をあげることができると考えられる。

その他、駆瘀血作用が期待できる生薬のうち、芍薬や牡丹皮に含まれる paeoniflorin や paeonol、桃仁に含まれる amygdalin、紅花に含まれる adenosine には血小板凝集抑制作用などの駆瘀血作用に関連した効果が報告されているが、不明な点も多い。

1) 岩岡ら, *岐阜薬科大学紀要*, **60**, 11-21 (2011) (総説); 2) 平山ら, *日東医誌 Kampo Med.*, **71**, 8-17 (2020);

3) Matsuda H. (Hideaki) *et al.*, *Biol. Pharm. Bull.*, **24**, 264-267 (2001); 4) Matsuda H. *et al.*, *Bioorg. Med. Chem.*, **12**, 4871-4876 (2004).

【略歴】

昭和 63 年 3 月 京都薬科大学大学院薬学研究科 (博士課程) 修了

昭和 56 年 4 月~昭和 59 年 9 月 (株) 廣貫堂 研究所勤務

昭和 63 年 4 月~平成 2 年 12 月 (株) 京都有機化学研究所 技術開発課勤務

平成 3 年 1 月~平成 8 年 3 月 森下仁丹株式会社 研究開発部勤務

(平成 7 年 4 月~平成 8 年 3 月 (財) 生産開発科学研究所に出向)

平成 8 年 4 月 京都薬科大学・生薬学教室 (現、生薬学分野)・助教授

(平成 19 年 4 月から准教授に名称変更)

平成 25 年 4 月 教授に昇任

令和 3 年 3 月 定年退職

令和 3 年 4 月 京都薬科大学・名誉教授

【現職】

京都薬科大学 名誉教授

近畿大学薬学総合研究所(森川教授)・研究員

森下仁丹株式会社・技術アドバイザー

(財)生産開発科学研究所内 (株)京都有機化学研究所・顧問

【受賞】

平成 10 年度 日本生薬学会学術奨励賞

平成 24 年度 日本生薬学会学術貢献賞

令和 2 年度 日本薬学会学術貢献賞(第 1B 部門)

令和 3 年度 和漢医薬学 学会賞

令和 3 年度 日本生薬学会 学会賞

【所属学会】

日本生薬学会(副会長(令和元年)、会長(令和 2 年))

和漢医薬学会、日本薬学会

日本東洋医学会、京都漢方研究会(理事長)

準備委員会一覧

会 長	田中 邦雄	明治国際医療大学
準備委員長	細野 靖之	あゆみ薬局
準備副委員長	福岡 正平	ふくおかクリニック
準備委員	中西 美保	滋賀医科大学麻酔科
準備委員	山崎 武俊	洛和会音羽リハビリテーション病院内科
会計担当	中井 章淳	なかい皮ふ科

(敬称略)